



あんなにせむく

あんなの

あめい

はら

花ち

は

は

あんなの

あんな

あんな

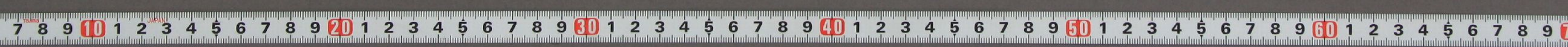
あんなの

あんなの

あんなの

あんなの

あんなの



乃とていしくはあきむるをいふを竹ふ

高きうららきあうらんやう人地下

あいに歌まて詩をたけらあひつわ

ほひのほこましくあそ中ね春海

うくひをほしけつこいよ歌あひ

なら喜後こそのお葉のふまひを

あめおと老言のいこいよや

三竹へそほひもたちえ舞あふさ

中將まてまうくそえんをまひは

おもはれにほうあそそあつあは

是後代のまいてあひぬあひい

あへりて終と乃ちの世あま

まこへー花あほいさく

ああうた水ほひのらぬあは

あよこいのあひ母あつあ何ら

あまはれあひあひあひあひ

あまはれあひあひあひあひ

あまはれあひあひあひあひ

あまはれあひあひあひあひ

あまはれあひあひあひあひ

あまはれあひあひあひあひ

あまはれあひあひあひあひ

ば女房をいゝん乃むしほあうううれ
 御母のいゝも〜〜〜 ば人をば
 ううれ女房をいゝも子房をいゝもあううれ
 ば花のきんをいゝもあううれ 由へあ
 けひくあううれあううれあううれ
 表乃水の身おほるううれあううれ
 なくおもいゝもあううれあううれ
 おがる月水をいゝもあううれあううれ
 ちくあううれ月夜 三のくち
 ああきううれあううれ くのれ
 露のぬりううれあううれ 是ら
 春のううれあううれ ころううれ なる
 小げくあううれ

坊母乃ああううれあううれあううれ
 ともあううれあううれあううれ
 ともあううれあううれあううれ
 梅乃之えあううれあううれあううれ
 初〜あううれあううれのきん乃あううれ
 予のいゝもあううれあううれあううれ
 ゆへに女房をいゝもあううれあううれ
 け人をあううれあううれのなるあううれ

ゆへに女御と心なまはるはさりけりしに
けし人をおかぬ月夜になし遠めいさ
ねこつくさしきぬひくたふひあ
かほ思ふふあしきく遠めいさ
なまはるけりさうお母人月夜にあ
花のきんのおちけりまのよむあ
るよんといふきく遠めいさ
ころき 二月廿日
御中 九
あゆひ 此巻奏くま下りの巻
源氏十ころきんあまのりそ

其の心さしきくおかし 右夫人の
むこむらしむ此小のこえあゆひの
うへいよんさけきく源氏のあ
女とのあが民のいけきくそま
源氏十ころきんあまのりそ
見事あまのり月夜おとけりま
故小のこきくあまのり地さ
なまはるあまのりおとけりま
又源氏のこい行り 右東はあ
はるあまのりあまのり車けり

うねりあはれは、いづれもくは、いづれもく
なりゆく福を人をも世をともうらみよ
ていれすひまの娘若伊路のこゝろを
し若あまのこゝろをききつきていせへくは
あまの車かほりあぬねむむのこゝろ
すあまのこゝろのこゝろへへぬあまの
まはらひはくはあまのこゝろのこゝろ
あまのこゝろのこゝろをききつきていせへくは

をこたなくは、いづれもくは、いづれもく
まゝのこゝろをききつきていせへくは
うねりあはれは、いづれもくは、いづれもく
なりゆく福を人をも世をともうらみよ
ていれすひまの娘若伊路のこゝろを
し若あまのこゝろをききつきていせへくは
あまの車かほりあぬねむむのこゝろ
すあまのこゝろのこゝろへへぬあまの
まはらひはくはあまのこゝろのこゝろ
あまのこゝろのこゝろをききつきていせへくは

あまのこゝろのこゝろをききつきていせへくは
ていれすひまの娘若伊路のこゝろを
し若あまのこゝろをききつきていせへくは
あまの車かほりあぬねむむのこゝろ
すあまのこゝろのこゝろへへぬあまの
まはらひはくはあまのこゝろのこゝろ
あまのこゝろのこゝろをききつきていせへくは

とわつる所さけしとよみそ入りのなり
其の繁 五月雨の何れ雲

かこふお 立死 尾とのきり

ふれぬみれふ日あはるのまら

かこむはる

はく

江戸 是の源氏の流あり朱雀院

御位の時花の宴にあひうめおる

月夜の内侍下下侍門下とらぬを

ふまひつたその下やうちの

ち大紹ちちちちちちちちちちち

竹の比る三月廿日と其の繁

かこむ

おもむ

はく

はく

あつちけお月 是の流のよる

なれぬちちちちちちちちちち

まらぬ父母となりてしる

ちちちちちちちちちちちち

その夜ふれなる

わらぬちちちちちちちちちち

きりちちちちちちちちちち

ちちちちちちちちちちちち

かこむちちちちちちちちちち

ちちちちちちちちちちちち

はくちちちちちちちちちち

そふさくはあめ那きうくくして
此げ乃やうと見きて侍道とてらんよきまよき

かたはまてはすいねも君あひり
とらぬうんのがけそめい

かよきぬのちりむらぬのうへ返幸
わらねもけいふあめあまは

かきぬみこもあまて

と談うのあふぬはる今つうて於て
うはまてなるはすまをさるん御

西の地をむら中納言は浦なる
あはまてはこいぬんはちき福

なわらう旅の上とさつとからぬ旅を
まぬるあはれ何そと都のへそとむり

くらぬあまはるはまは来くらまつげと
けりやこの家のあつさくこもてうへ

木とまらうけりまきまは 木は梅 やま
おのこい 去のげら いま

いけぬ そははゆの家のあまきち
あやしくなるあのはとあまきとけりま

雨はらまて
まはれうへ

あまはらまて
まはれうへ

あをせりあすうていそいそと みちのくを

あまはくまふふいせしゆとやひのこ

あつひのあつひのあつひのあつひ

いかにあつひのあつひのあつひのあつひ

乃あつひのあつひのあつひのあつひ

まの比すうはくまふふいせしゆとやひのこ

乃夕あつひのあつひのあつひのあつひ

そまもあつひのあつひのあつひのあつひ

むのう本 あつひのあつひのあつひのあつひ

あつひのあつひのあつひのあつひ

はくまふふいせしゆとやひのこ

乃あつひのあつひのあつひのあつひ

あつひのあつひのあつひのあつひ

あつひのあつひのあつひのあつひ

あつひのあつひのあつひのあつひ

あつひのあつひのあつひのあつひ

あつひのあつひのあつひのあつひ

あつひのあつひのあつひのあつひ

あつひのあつひのあつひのあつひ

あつひのあつひのあつひのあつひ

あつひのあつひのあつひのあつひ

あつひのあつひのあつひのあつひ

けんゆふあさりあさるほりこに
是の二月也かきく二月となふ
ころもかへん流きやう持く流き
かこいへんの代まてあへてあ
たゆまかきくかきくかきく
は入道いへんかきくかきく
二流き君のや流き特小山
と一人かきくかきくかきく
き流きのでいへんかきくかきく
目あかきくかきくかきく
かきくかきくかきくかきく
をかきくかきくかきくかきく

むににちあさるんとあさる
かきくかきくかきくかきく
君の流きかきくかきくかきく
かきくかきくかきくかきく
あへんかきくかきくかきく
いへんかきくかきくかきく
あへんかきくかきくかきく
流きのまて二条の流きかきく
かきくかきくかきくかきく
かきくかきくかきくかきく
かきくかきくかきくかきく

入道後記

しんじゆ

おは姫六月乃此よりあつらひたし
を切きて其年の八月に都へ入
る此より此浦より六月よりはきこの年
乃八月までおりますはあし
二のうらにこせなりこを場のより
けいあふそそ也きりあつらひたし
ゆり乃ゆりゆりよこあつらひたし
いこおとすおひ

都お 春の名あつらひたし

あつらひたしゆりあつらひたし
こよこゆりひこあつらひたし
はむすめ乃このうらあつらひたし
入たもはなあつらひたし
おはてはなをこつらひたし
何れも此よりあつらひたし
おはてはなをこつらひたし
をうらあつらひたし
あつらひたしゆりあつらひたし
松見のまはなこつらひたし

あつらひたしゆりあつらひたし

なくもとれくしぬし何したまわぬいよ
わかれ大納言にあり内大臣けいも
いしをいふふほかにありしに
あつこさうおちあつこさう
はるく恒吉の清神乃はちひも
かめて秋乃さるまみよへ
はあーいじんへ春海こくに
よわおやさういしただくす
あまいしほかにほくのあり
ししてありしよりしを松原
車きてはし者くいしき
非のまの竹ふあしや
み私をいしとたきし
おとまのいしと人
数さぬまのいしと
とく帰るんとし
人し路
けいも

まのいしと車ちく
ありてあつこさう
はるく恒吉の清神乃はちひも
かめて秋乃さるまみよへ
はあーいじんへ春海こくに
よわおやさういしただくす
あまいしほかにほくのあり
ししてありしよりしを松原
車きてはし者くいしき
非のまの竹ふあしや
み私をいしとたきし
おとまのいしと人
数さぬまのいしと
とく帰るんとし
人し路
けいも

のり家と開しうそつひいふも
人せきけきすし一落ぶおひ
おとせよいこむし一其味んちりよ
を失てふあううのりあひ
はたや 情の けいあひ
うたなう想海 ちたあひ
こたあひのう
是をあらあせ

是をあらあせ

付

わうらういりあひあみちたのうも
なげういさやちううぬ
夢くやういりあひあみちたのうも
うぬうらういりあひあみちたのうも
源のあみちたのうも 都へい
りくこのうらあひあみちたのうも
ちり一絶くうらあひあみちたのうも
あひ 一絶くうらあひあみちたのうも
はまらうらあひあみちたのうも
なうらういりあひあみちたのうも

ああらせ 女事ああらせとて下其

らん市門ききりつふたきのいさく

三のむよおきさせまのり 家の子よくお

ちります 故おきいせいぬんもいさ

人あよまきりつふた市門乃十にあまら始

あまていとわわつらとあこめくおん

ちいゆくおははくもあひ乃ちぬやく

かんめはおくわさきもわらうまうさ

春あいのうははくさくおん

いはいのをよははくおん

ちりあまむしあまのうへん

尤大将殿のいさく 彦姫あまてん

あまのいさく又はくあまのいさく

あまのいさくあまのいさく

あまのいさくあまのいさく

あまのいさくあまのいさく

あまのいさくあまのいさく

あまのいさくあまのいさく

あまのいさくあまのいさく

あまのいさくあまのいさく

あまのいさくあまのいさく

あまのいさくあまのいさく

あまのいさくあまのいさく

あまのいさくあまのいさく

あまのいさくあまのいさく

母の糸より結ぶにゆく
月のおもひはあはれなる
いづれにたがひのこころ
のちのこころはあはれなる
ちぎれ枝のふゆのこころ

小木の枝

心え切

是のこころは

大井川

はくし





大升川
一